

CAPちくほう
白土もとこさん（右）
田中美丘さん（左）

子どもの「権利」が守られる 地域社会をめざして



CAPとは、子どもへの暴力防止（Child Assault Prevention）という意味です。

CAPプログラムは、子どもが暴力（いじめ、誘拐、性的虐待など）にあたり、あいさうになったときに、自身に何ができるのかを一緒に考え、劇を通じて練習していくワークショップ（参加・体験型の学習）です。

専門の養成講座を受講した、CAPスペシャリストたちのグループは、現在、全国で160以上にものぼり、子どもたちを暴力の被害者にしない、加害者にしない、そして傍観者にしないためのこのプログラムは、現在教育現場を中心に全国で実施されています。

本会では、子育て支援講座の一環として、11月14日（火）に、CAPちくほう（白土もとこ代表）による「おとなワークショップ」を開催し、子育て中の親はもちろん、民生委員児童委員や主任児童委員の皆さんなどが参加しました。

子どもへの虐待や性的暴行を目的とした誘拐や殺人、学校でのいじめなど、子どもたちを取り巻く状況が一段と厳しさを増す中、子どもたちが安心して暮らすことができる地域社会の実現を願って活動を始めた、CAPちくほうの白土もとこさんと田中美丘さんにお話を伺いました。

CAPのワークショップには大きく分けて2種類あると聞きました。

白土

子どもワークショップと、教職員や地域のおとなのためのワークショップがあります。

子どもワークショップでは、大切な3つの権利「安心・自信・自由」について、またそれらの権利を守る方法について、子ども自身に何ができるかを一緒に考えます。このワークショップを通じて、子どもたち一人ひとりに「自分たちは大切な権利を持っているんだ」という意識を持つてもらうことがねらいです。

今回の子育て支援講座でも実施したおとなワークショップは、暴力についての具体的な話や、子どもの権利を守るためにおとなができること、子どもとの関わり方についてなどをお話します。また、子どもワークショップでの寸劇も一部見てもらいながら、家庭や学校、地域でのおとなの関わり方について学んでいきます。

CAPのワークショップの特徴は、どういったところですか？

田中

これまでの暴力防止対策は、「子どもは弱い立場にあるからおとなが守らなければならない」という視点での発想でしたが、CAPワークショップでは、暴力を受けそうになったとき、また受けた時に、子ども自身が問題を解決しようとする力を信じ、その力をいっしょに引き出すことができるように、寸劇等で具体的に暴力についての知識・対処策などを学ぶことが特徴です。子どもの内なる力に働きかけていくワークショップといえます。



人形を使った寸劇のひとコマ

地域のおとなへの働きかけについて詳しくお聞かせください

白土

CAPでは、子どもたちの安全のためには、地域のおとなたちが子どもたちをサポートすることが不可欠だと考えています。子どもには、子どもたちのことを真剣に考えてくれるおとなが地域にいるということを伝えるのです。また、おとなには、一人ひとりがその役割を担えるように子どもたちと対等な関係で向き合っていくことの大切さを訴えます。家庭・学校・地域で子どもをサポートするという意識を持ってもらうのです。

親が子どもと対等に向き合うということとは、具体的にはどのようなことですか？

田中

例えば、子どもからいじめなどの暴力を受けたと相談された場合、そのことをすぐに親が解決しようとせず、まずは気持ちを聴き受け止めてあげてください。じっくり子どもの話に耳を



子どもの権利について、様々な方法で伝えるワークショップ



いじめに対して誰が責任をとるのかではなく、「いじめをされる側は少しも悪くない。いじめをする側が悪い。いじめをしていい理由なんてない！」という事をクラス全体、学校全体で共有しておくことが大切だと思います。そうする事が、傍観者をつくらない何よりの方法でもあると思います。そして、いじめをする子ども達の抱えていることにも、目を向ける必要があると思います。いじめをする子、いじめられる子の両方に、おとながしっかり耳を傾ける事が、いじめを解決する第一歩だと思います。

CAPちくほう

平成17年6月発足

代表 白土 もとこ
電話 090-8393-7455

平成16年6月のCAPスペシャリスト養成講座（春日市）を受講したメンバーを中心に、福岡県内で5つめのCAPグループとして発足。

筑豊地区の幼稚園、保育園、小・中学校からの依頼を受け、これまで数多くのワークショップを実施。現在8名で活動中。

知り合おう
伝えよう!!

みんなの活動、地域

のホットニュース!!



嘉穂
地域

鮭の遡上する川...遠賀川

～ 鮭神社と嘉穂地域住民の取り組み～



鮭が奉納される鮭塚

みなさんは遠賀川に鮭が遡上してきていることをご存知ですか。遠賀川に鮭と聞くと、少し意外に思われる方も多いのではないのでしょうか。でも遠賀川と鮭との間には、昔から深いつながりがあったのです。それを示す神社が大隈地区にあります。その名も「鮭神社」。鮭を祀り、「鮭」と名のつく神社は全国でもここだけという珍しい神社です。

そして、この鮭神社で毎年12月13日に行われているのが、遡上してきた鮭を奉納して、五穀豊穡を祈る「献鮭祭」です。石炭産業が活発だった昭和初期には、石炭による水質汚染に加え、農薬などの影響もあって、水質の悪化が深刻となり、鮭の姿を見ることができなくなりました。そうした年には、本物の鮭を奉納することができないため、大根を縦に割り、赤いとうがらしをつけて、鮭の姿に見立てて奉納していたのだそうです。

最近では、水質が改善されてきたことに加え、鮭を呼び戻そうと、住民団体や小学校など地域の住民による鮭の稚魚の放流などが盛んになり、遠賀川水系で発見された本物の鮭を奉納することができるようになってい

ます。今年の献鮭祭では、遠賀川水系の金辺川と吉原川でそれぞれ卵を抱えた雌の鮭が1匹ずつ発見され、そのうちの1匹が、北海道や岩手などから送られてきた鮭とともに鮭塚に奉納されました。宮総代をされている大里信義さんは「遠賀川流域では、各地で毎年鮭の稚魚が放流されています。今は戻ってきた鮭が遠賀川で産卵して、その卵が孵化して、遠賀川から旅立っていくようになればよいですね」と夢を語られます。



献鮭祭にて鮭を奉納する大里さん

また、「鮭が戻ってくるかどうか。それが遠賀川の環境のパロメーターだといえるのではないのでしょうか。そういった意識でも鮭が戻ってきたという知らせは本当に喜ばしいことなんです。」と話されたように、鮭がたくさん遡上する川にしていくことは、遠賀川の自然環境を守り、改

稲築
地域

英語を通じて文化交流

～ 元英語教師が通訳ボランティアで活躍～ 赤間正久さん(76歳)

福岡ライオンズクラブの交流事業で、11月27日から12月12日まで、嘉麻市鴨生に滞在したマレーシアからの留学生のホ・ワンジンさんの通訳を、岩崎在住の赤間正久さん(76歳)が担当しました。

元英語の教師である赤間さんは、退職をきっかけに、筑豊SGG(善意通訳ボランティアガイド)を仲間数人と1998年に結成しました。同グループは、結成の翌年から開催されている飯塚国際



歓迎式典で通訳する赤間さん

車いすテニス大会での通訳をはじめ、九州工業大学の留学生や、外国語教師(ALT)を招いて交流会を開催するなど、筑豊地区に滞在する外国人の方の生活をサポートしており、経験豊かな赤間さんに、ホさんの通訳として白羽の矢が立たったのです。

12月5日、ホさんが、ホストファミリーに連れられて、鴨生町のふれあい・いきいきサロンを訪れたときのことです。年賀状づくりやお手玉遊び、お茶の作法などの日本文化に触れるホさんは、「アカマサン!」といった赤間さんの方に視線を向けていました。赤間さんも、いつも笑顔でホさんに寄り添い、ていねいに通訳している姿から、ホさんにとって赤間さんは、とても頼りになる存在であることがうかがえました。

赤間さんが教師になった昭和35年頃は、ラジオから流れる英語をテープに録音して、それを繰り返し聞いて覚えるという勉強法しかなく、とても

苦労したそうです。それでも、「もっと外国の文化に触れてみたい」と、熱心に勉強を続けたことが実を結び、県の研修制度で初めて筑豊地区からアメリカに留学することができたときの喜びは、「今も忘れられない」と言います。

赤間さんは、「外国の文化に触れることは、日本の文化に触れる機会にもなります。今は、外国語を勉強する方法もたくさんあるので、若い人には積極的に勉強して欲しいですね。私も、負けずこれからも続けていきましょ」と、学習意欲は昔と変わらず旺盛です。

2週間という短い間で、赤間さんとホさんの間には、心のつながりができたはず。きっと、マレーシアで「Make a difference」と写真を指差しながら、ホさん家族に「日本の素敵な通訳者」と紹介されていることでしょう。

教えて下さい! 面白情報・耳寄り情報があれば自薦、他薦は問いませんので嘉麻市社会福祉協議会まで、ご連絡ください。※各地域に取材に伺います。

かまボランティア・市民活動センター情報

【2007年1月】

自分のできることから はじめの一步

～嘉麻市ボランティア講座初級編が終了しました～

10月14日より全7回コースで開催してきた、「嘉麻市ボランティア講座～初級編～」が、12月9日（土）に閉講し、開催中延べ74人の市民の方が受講しました。

講座5（11月25日）では、NPO法人日本笑い学会博多笑い塾理事長の小ノ上マン太郎氏が、ユーモアたっぷりに、そして「遊び」と「リハビリ」の要素を用いた「アソビリテーション」を紹介し、脳を元気にする笑いの効用について楽しく学びました。

また、講座6（12月2日）の、災害時のボランティア活動をされている、福岡レスキューサポートバイクネットワークの副代表波多江勇一氏からは、「最初は誰かのためになんて考えてなくて、バイク乗りのイメージを良くしたいという思いから、バイクによる災害時支援活動をはじめたんですよ。」と活動の意外なきっかけなども聞くことができました。

締めくくりの講座7（12月9日）では、地球共育の会・ふくおかの副代表松本亜樹氏を講師として、ワークショップ形式で、これまでの講座の振り返りを行いました。受講者のみなさんは、「ボランティアは自分のため」「まず近所の挨拶からはじめてみます」など、講座を通して自分の感じたことやこれからの活動に対する思いを発表しました。

この講座は、ボランティア活動への「はじめの一步」を踏み出すきっかけになればとの思いで開催したのですが、今後もこうした講座だけでなく、さまざまな形で「活動してみたい」という市民のみなさんの思いを実現できるよう、少しでもお手伝いできればと考えています。



ユーモアたっぷりの話術で
笑いの効用を語る小ノ上氏



災害復旧支援の経験を語る
波多江氏



自分を色で表現する
受講者と松本氏

受講者の声

ボランティアは学びの場

平 西坂勝正さん

ボランティア講座を受講するきっかけは、数年前から参加している障がい児との交流を持つうちに、もっというんなボランティアを知りたいと思ったからです。

講座に参加してみると、ボランティアは人のためではなく自分のためである、自分を磨くために活動するものだということを学びました。まだ、短い体験の中ではありますが、まさにその通りだと思いました。

今回の講座の中で色々なボランティアグループの取り組みを見て、聞いて、体験することで、多くのものを得ることができました。今後も、人とのふれあいを大切に、自分ができることから参加していこうと思います。



退職後の時間を有効に活用

下白井 堀内修三さん

私が講座に参加したきっかけは、退職して時間的な余裕が生まれ、仕事をしているときから興味があったボランティア活動にはどのような活動があるのかを知りたかったからです。今回のボランティア講座は、いろいろな方面で活躍されている方々の話を聞くことによって、ボランティアは、人のためではなく自分のための活動だと気付くことができました。

今後はこの経験を活かしながら、退職後の時間を有効に使い、できる範囲で活動していきたいと思います。



市民の皆様からの越冬用物資を届けました ホームレス自立支援事業

11月から12月にかけて、ホームレスの越冬用物資を募集したところ、市民の皆様から冬用ジャンパー73着と毛布53枚が寄せられました。これらの物資は、12月8日（金）に、NPO法人「北九州ホームレス支援機構」が実施する炊き出しに合わせて持参し、ホームレスの方々に直接手渡ししました。

同法人では、この日から3月までを越冬期として、毎週金曜日に炊き出しや支援物資の配布する他、炊き出し場所まで来ることができない方々



のために、いくつかのグループに分かれて市内を巡回し、声をかけながらお弁当や物資を届けています。

この支援活動には、学生や医師、会社員など、多くのボランティアが参加しており、「一人も路上死を出さない」を合言葉に、スタッフとボランティアが心をひとつにして活動しています。

ホームレスの問題は、一見都市部だけの問題として思われがちです。しかし、問題の本質は、家が無いといった物理的な問題だけではなく、むしろ人とのつながりが絶たれてしまっていることにあります。

このような状況を生み出しているのは、現代社会であり、決して都市部の一部の人だけの問題ではありせん。

このような問題意識を市民の皆様と共有し、これからの住みよい地域づくりのために活かしていけたらと考えています。

今回、物資を提供してくださった市民の皆様、本当にありがとうございました。

国際ソロプチミスト飯塚 嘉穂 認証10周年を記念し、本会に車いすを寄贈



国際ソロプチミスト飯塚 嘉穂のみなさんより、認証10周年を記念して、本会にモジュールタイプ車いす2台の寄贈がありました。

同団体は、1997年12月に結成されて今日まで、飯塚国際車いすテニス大会でのパザーや、遠賀川源流の清掃、各地区の小学校に出向いてアクリルタワシづくりの指導など、地域に根ざした活動を続けてこられています。

今回の寄贈は、5周年に続いて2度目だそうです。この記念事業の実行委員長である武内美代子さんから、「台数は少ないですが、モジュールタイプは自立に結びつくということで選びました。この車いすを、市民の皆様のためになるよう、有効に活用して下さい。」とのメッセージをいただきました。

私たちのまちのかまボラ No.10

今月の「かまボラ」は...

福祉の会「たんぽぽ」

福祉施設や小学校などに手作りのお手玉を寄贈したり、作り方を教えている福祉の会「たんぽぽ」は、平成8年に発足し、現在5名のメンバーで活動しています。

お手玉を作る時には、メンバーがそれぞれ違った役割を担っています。しかし、メンバー全員で取り組むことが1つあります。それは、河川工事が進み、なかなか集まりにくくなったじゅず玉集めです。じゅず玉の熟する秋の短い期間に山田や嘉穂の川土手へ探しに行きます。

長方形に切った布を4つ組み合わせて縫い、苦労して探したじゅず玉と鈴を一つだけ入れると軽やかな良い音がします。

「このお手玉の作り方は、小学生のときに近所の方から教えてもらいました。そんな風に昔の遊びを今の子どもたち

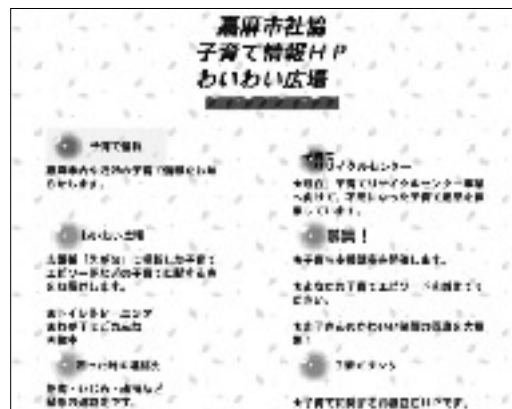


愛情のこもったお手玉



手や指のリハビリにもなります

嘉麻市社協のHPに子育て情報が載っています！



<http://kama.syakyo.com/kosoinde.htm>

子育て情報求む！

HPでは、子育て情報や子育ての声を募集しています。子育てに関することなら何でもかまいませんので、是非お寄せ下さい。
Mail info@kama.syakyo.com

子育て情報 (blog)

嘉麻市内や近郊の子育て情報をお知らせします。

わいわい広場

広報紙えがおに掲載した子育てエピソードなどを掲載しています。

困ったときの連絡先

急病・いじめ・虐待などの緊急連絡先です。

子育てリサイクルセンター

いらなくなった子育て用品を募集しています。

募 集！

子育てエピソードやお子さんのかわいい笑顔の写真を募集しています。

子育てリンク

子育てに関するお役立ちHPです。

不用になったチャイルドシートを募集します

嘉麻市社会福祉協議会では、子育て中の世帯を対象に「チャイルドシート貸出事業」を行っています。ご家庭などで不用になったチャイルドシートがあれば、リサイクルさせていただきたいと思いますので、最寄の各支部までお寄せください。

【募集しているシートの種類】

新生児用・乳幼児用・児童用ジュニアシート（十分使用できるものに限りさせていただきます）

お寄せいただく前に、シートカバーの洗濯をお願いします。

自宅へ伺っての引き取りは行っておりません

受付場所・お問合せ先

嘉麻市社会福祉協議会(稲築支部)	0948-42-0751
山田支部地域福祉推進センター	0948-53-0838
嘉穂支部地域福祉推進センター	0948-57-3803
碓井支部地域福祉推進センター	0948-62-3538



子育て支援講座でこんなことを学びました！



講座1「完璧な親なんていない！」

講師 筑豊子育てネットワーク「かてて!」 稗田佳子さん

完璧な親なんてどこにもいません
完璧な親になろうと頑張りすぎていませんか？
みんないろいろな悩みを抱えながら「育児」をしているものです。
一人で悩まないで、家族や友人に相談してください。悩みを聞いてもらうだけでスッキリしますよ。

あなたは大切な人です
家族にとってあなたはとても大切な存在なのです。
そのことを自分自身が良く理解し、また家族にも理解してもらいましょう。

講座3「初めてのベビーマッサージ」

講師 看護師・タッチケア指導者 橋田真理子さん

子どもとのふれあいの大切さ
手と体がふれあうことでさまざまな効果が生まれます。「相手にふれることによって相手をわかる」体験を重ね、安心感を得たり、感性を磨くことにもなります。
お風呂上りにお腹や背中をマッサージしてあげたり、寝る前に手足の先をちょっと握ってあげるだけでもかまいません。お互いが癒される楽しいタッチケアをしてください。

育児疲れをリラックス
少しの時間でいいので、自分の手や足をマッサージしてみてください。リラックスできて、ストレス解消になります。



講座4「心配しないで...きっとだいじょうぶだから」

福岡県子育てアドバイザー 木ノ原元美さん

子育て中の今を楽しもう
子育て中は、忙しくて外出する余裕すらないかもしれません。でも、一歩踏み出せば素敵な何かがあるかもしれません。子どもと一緒にできることが何か見つかるかもしれません。そして、いろいろな経験がきっとかけがえのないものになります。子育て中の今しかできないことを見つけてみてください。

絵本の大切さ
絵本は、子どもにとっても親にとってもとても大切なものです。絵本を通じて、親子のふれあいがいより深いものとなります。少しの時間でも一冊でもかまいません。時間をみつけて絵本を読んであげてください。

地域に支えられて 64 年

～山田高校最後の文化祭でバザーを実施 益金を嘉麻市社協に～

昭和 18年に山田中学校として開校して、長い間地域の皆様に親しまれてきた福岡県立山田高等学校が、64年の歴史に幕を降ろすことはご存知のことと思います。第 1回入学生 164 名が入学してから 64年。最後の卒業生 42名が卒業する日が近づいています。

同高は、開校にあたって、地元の方々が鍬やスコップをもって建設地を開拓するなど、地元の方々の想いが結集して作り上げられた学校です。地域に開かれた学校として、歴代の卒業生が築き上げてきたものは計り知れません。その中でも、特に大切にしてきた地域とのつながりは、行政と合同でほたる祭りを実施したり、公共施設に花を植えたプランターを寄贈するフラワープロジェクトで内閣府から表彰を受けるなど、今も変わらず生徒がその意思を受け継いでいます。

平成 18年 11月、ラストフェスティバルと銘打って開催した文化祭では、生徒がバザーや模擬店を実施し、これまで支えてくださった多くの地元の方々にも参加いただいて、感謝の気持ちを伝えました。

今回、その文化祭での益金を、生徒会長の堀紘彰君と、副会長の高橋マミさん、PTA会長の坂口和也さん 3 名が代表して、嘉麻市社協に贈呈いただきました。その席上、山田高校 3期の卒業生である大山会長は、最後の卒業生となる 2 人の後輩に向けて、感謝と励ましの言葉を贈りました。

今回のご寄附には、歴代の卒業生を含め、山田地域のみならず、周辺地域の方々に対する山田高校の感謝の気持ちが込められています。本会としても、山田高校の歴史がこれからも地域の中で受け継がれていくよう、有効な使い道を考えていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



理事会開催状況

嘉麻市社会福祉協議会では、下記のとおり第 9 回理事会を開催しました。

開催日 12 月 8 日（金）

議案等 報告第 5 号 係争中であった旧嘉穂町社協の件に対する福岡高等裁判所による判決について

福岡県司法書士会筑豊支部からのお知らせ

あなたと歩む、司法書士～無料法律相談を開催します～

相続、遺言、不動産・商業登記、多重債務、悪質商法、家事事件、訴訟事件等、身近な法律トラブルについて司法書士が会場で無料法律相談に応じます。秘密は固く守られます。どうぞお気軽にお越しください。

日 時 平成 19 年 1 月 28 日（日曜日）午前 10 時から午後 3 時まで
場 所 桂川町住民センター（2 階会議室）
主 催 福岡県司法書士会筑豊支部 電話 0947-45-3996
申込方法 事前予約者を優先します。
（ただし、定員になり次第締め切らせていただきます。）

予約電話番号 電話 0947-44-2530
受付時間 平日 10:00～12:00 で受け付けます



在宅サービス知っとく情報

このコーナーでは、“気になる・知って得する・耳よりな”地域・在宅福祉サービス情報を紹介します。

今回は嘉麻市の配食サービスについてご紹介します。

嘉麻市では「介護予防事業」の一環として配食サービスがあります。この配食サービスは高齢者や障がい者、疾病等何らかの事情によって食事の準備が困難な方々に、栄養の保持と安否確認を目的に利用者宅を訪問し、お弁当を届けるサービスです。

山田・碓井・嘉穂地区の配食サービス事業については、嘉麻市社会福祉協議会が嘉麻市より委託を受け実施しており、稲築地区においては、(株)シアーズが実施しています。

尚、利用の実施日等は各地区で異なります。

【対象者】

市内在住で、おおむね 65 歳以上の独居世帯や高齢者夫婦世帯等、心身の障がい（身体障害者 1 級・2 級、療育 A、精神保健福祉手帳 1 級所持者）及び疾病等の事情によって食事の準備が困難な方々です。

【申し込みから利用までの流れ】

利用者及びその家族や親族が申請



利用者やその家族が各庁舎窓口へ申し込む。電話申し込みも可能です。

地区の在宅介護支援センターが訪問



在宅介護支援センターよりソーシャルワーカー（職員）が利用者を訪問し、調査します。（アセスメントの作成）

配 食



単にお弁当を届けるのではなく、「安否確認」を重視し、利用者が生活するうえでの危険ごとや事故等を未然に防止していくことにも心がけています。

地域の
各庁舎

保健高齢者係・高齢者福祉係が受付



担当の窓口が利用者の要望を聞き、各地区の在宅介護支援センターへ調査依頼をします。

高齢者介護課（高齢者福祉係）が決定



身体状況等で利用の可否が判断され、それに基づいて嘉麻市より通知書が送付されます。
* 利用条件等を満たしていない場合は、利用できないこともあります。

【問い合わせ（各庁舎）】

保健高齢者係

【稲築支所】（42）- 7048

【碓井支所】（62）- 5685

【嘉穂支所】（57）- 3191

【山田支所】（53）- 1182（高齢者福祉係）

